



## お酒を飲むと、ようのはなぜ

### ひみつはエチルアルコール

お酒を飲むとようのは、お酒の中なかにふくまれている、エチルアルコールのせいです。

エチルアルコールが体からだの中なかに入ると、血液けつえきの中なかに入り、脳のうへ行いきます。すると、エチルアルコールは脳のうにはたらきかけ、脳のうのはたらきを乱みだしてしまうのです。これが、お酒を飲んで、ようということなのです。

少すこしくらいのお酒では、エチルアルコールの量りょうも少すくなく、脳のうのはたらきも少すこししか乱れないため、気持ちのいいくらいじょうたいの状態じょうたいにしかありません。しかし、お酒をたくさん飲むと、エチルアルコールの量りょうが多おほくなり、脳のうのはたらきが激はげしく乱みだされ、わけがわからなくなったり、歩あるけなくなったりする状態じょうたいになるのです。

### お酒に強い人と弱い人がいるのは

お酒を飲んで、よっぽらいやすい人ひとと、そうでない人ひとがいる理由りゆうの一つは、体重たいじゅうです。大きな体からだの人ひとは少すこしお酒を飲んでも、小さな体からだの人ひとほどには感かんじません。これは、薬くすりのききめと同じようなものです。

もう一つの理由りゆうは、体からだの中なかに、酵素こうそというものを、生まれつきたくさんもっている人ひとと、そうでない人ひとがいることです。この酵素こうそは、お酒にふくまれているアルコールが、体からだの中なかで分解ぶんかいされてできる物質ぶつしつを、どどんどん、害がいのないものに変かえるはたらきをするので、たくさんもっている人ひとほど、お酒によわ(監修・保志 宏)ないのです。

